

## 2 特別支援教育

### 指導の重点 一人一人の教育的ニーズに応じた指導

文部科学省の『障害のある子供の教育支援の手引』において、「教育的ニーズとは、子供一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を把握して、具体的にどのような特別な指導内容や教育上の合意的配慮を含む支援の内容が必要とされるかということを検討することで整理されるものである」と示されています。児童生徒一人一人の教育的ニーズに基づき、自立と社会参加に向けた力を育成する上でICTの活用は大きな効果が期待されます。  
『障害のある子供の教育支援の手引』（文部科学省）

### 学習上の困難さを改善・克服するためのICTの効果的な活用

特別支援教育におけるICTの活用には次の2つの視点があります。特に〈視点2〉は特別な支援が必要な児童生徒に特化した自立活動の視点です。

#### 〈視点1〉

教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするためにICTを活用する視点

- ・教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力であり、障害の有無や学校種を超えて全ての児童生徒に共通の視点。
- ・各教科等の授業において、他の児童生徒と同様に実施。

#### 〈視点2〉

#### 自立活動の視点

障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するためにICTを活用する視点

- ・自立活動の視点であり、特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点。
- ・各教科及び自立活動の授業において、個々の実態等に応じて実施。

『特別支援教育におけるICTの活用について』（文部科学省）

障害により、各教科等において育まれる資質・能力の育成にさまざまな困難さや学びにくさは、多様かつ個人差が大きいため、「困難さの状態」を把握した上でどのようなICTの活用が有効であるかを検討して、適切な支援を行うことが大切です。

### 各教科等において育まれる資質・能力

#### 支える

〔自立活動の視点からの様々な困難さに対応したICTの活用例〕

<p><b>文章を読む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習者用デジタル教科書                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み上げ、反転表示機能等</li> </ul> </li> <li>◇カメラ機能                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大・縮小機能等</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>書き出す</b> </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ワープロソフト                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声入力、キーボード入力等</li> </ul> </li> <li>◇文字認識（OCR）ソフト                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の取り込み、テキスト変換など</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>話を聞く・意味を把握する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇プレゼンテーションソフト                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的な手掛かりの提示等</li> </ul> </li> <li>◇デジタル式耳栓、イヤホン                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノイズキャンセリング機能（聴覚過敏への対応）</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>計算する・推論する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇表計算ソフト                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフ作成機能等</li> </ul> </li> <li>◇電子決済サービス                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子マネーによる支払機能等</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>注意を保持する・集中する</b> </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇プレゼンテーションソフト                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメーション機能等（提示情報の焦点化や強調）</li> </ul> </li> <li>◇視覚的タイマーソフト                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動や終了時間の視覚化等</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>自分の考えをまとめる</b> </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇マインドマッピングソフト                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えや気持ちの言語化、視覚化、整理等</li> </ul> </li> <li>◇カメラ機能                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や動画による体験の想起等</li> </ul> </li> </ul>

### 授業における困難さに応じたICTの活用例

#### 導入の場面

関連する困難さ：意味を把握する、注意を保持する・集中する

活用の意図：児童生徒が学習課題や活動の流れを理解できるように、教師が活動内容を示範したり、プレゼンテーションソフト等で視覚的に分かりやすく提示したりする。

「困難さの状態」に応じ、授業におけるICTの活用意図を明確にして支援を行います。



教師が活動内容を示範し、その様子を実物投影機及び大型モニター等を使用して拡大表示する。



課題と活動内容を児童生徒がいつでも確認できるよう、大型モニター等に投影して示す。

#### 振り返りの場面

関連する困難さ：自分の考えをまとめる

活用の意図：振り返りの場面で児童生徒が学習内容や取組の様子を想起し、学びを実感できるように、教師がカメラ機能で活動の様子を撮影し提示する。



児童生徒が自分の学習の様子を手元で確認できるよう、教師が撮影した動画を1人1台端末に送信する。



児童生徒がめあてやねらいを達成している場面を意図的に抜き出して撮影し、相互評価の場面で活用する。

特別支援学級において、各教科等と自立活動を関連させた学習におけるICTの活用例

小学校（知的障害学級） 国語科 単元名 「まっぼっくりけん玉の作り方を、わかりやすくせつめいしよう」（本時4/8）

◇児童の実態

・3年生1名<A児>、4年生1名<B児>、計2名の学級。実態に応じた、特別の教育課程を編成している。

<A児>平仮名は読めるが、書けない平仮名がある。

★〔A児の困難さ：目と手の協応が難しく、運筆に不器用さが見られる。字の想起が難しい。〕

<B児>気になったことはすぐに話す、内容を忘れやすい。文を書くことに抵抗感がある。

☆〔B児の困難さ：注意の逸れやすさ、出来事や体験したことの忘れやすさがあり、考えをまとめることに時間が掛かる。そのため、内容を整理して話す、書くことに苦手意識がある。〕

◇本単元の目標（一部）

・松ぼっくりと紙コップを使ったけん玉作りを通して、順序を表す言葉に触れる。〔知識及び技能 3段階 イ(ア)〕

・写真等を手掛かりに、けん玉作りの説明に必要な言葉の意味や使い方を知り、作り方の手順を整理して、1人1台端末を活用して説明する。（自立活動）

本事例では、知的障害特別支援学校小学部の国語科の目標を参考にして設定しています。このように、児童生徒の実態や障害の状態を考慮し、当該学年の国語科の目標及び内容が適切に考えた上で、下学年又は知的障害特別支援学校の目標や内容を参考にして設定します。

（資質・能力を支える自立活動の指導内容）

4 環境の把握

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

6 コミュニケーション

(3) 言語の形成と活用に関すること

障害等によって、必要な情報に注目することが難しかったり、語彙が少ないため読み取りや理解に時間が掛かったりする児童生徒がいます。実物や写真等を使って、見たり、読んだり、体験したりすることを通して理解する学習の機会を設け、概念や言語の確実な形成につなげることが大切となります。また、書くことに困難さがある場合は、キーボード入力等を使い、書字への負担を減らすことも考えられます。

学習内容：松ぼっくり、紙コップ、毛糸を使ったけん玉作りの文章を読み、「まず」等の順序が分かる言葉を知る。実際に松ぼっくりけん玉を作ることを通して、順序が分かる言葉を使ってけん玉の作り方を説明する。

学 習 活 動

1 学級で考えた「こくごのたつじん（一人一人に応じた到達度の表）」から、自分のめあてを決める。【一斉】

<A児>のめあて

・しゃしんをみて、けんだまのつくりかたや、せつめいをかんがえる。

<B児>のめあて

・けん玉を作るじゅんばんを考えて、じゅんじょが分かる言葉をつかい、せつめい文を書く。

2 例文に「まず」「つぎに」「それから」を当てはめるクイズを通して、順序が分かる言葉を確認する。【一斉】

3 教師が制作した、松ぼっくりけん玉作りのスライドショー（児童たちがけん玉を作っている動画をプレゼンテーションソフトで編集したもの）や写真を見て、作り方について話し合う。【一斉】

4 1人1台端末のプレゼンテーションソフトを使って、松ぼっくりけん玉の作り方の説明文を作成する。【個別】

・「①まず」の段落に合った写真を選んで、写真に合った説明文を考える。  
・同様に「②つぎに」「③それから」の段落の説明文を考える。

5 大型モニターで個々の説明文を見合い、感想やよいところ、真似したいところ等を発表する。【一斉】

6 本時の振り返りをワークシートに書く。【個別】

※（★）は<A児>、（☆）は<B児>の困難さに応じて、1人1台端末を活用した支援例

・「①まず」「②つぎに」「③それから」と順序が分かる言葉を使いながらけん玉の作り方が説明できるよう、段落ごとに動画や写真を提示し、情報を焦点化します。（☆）  
👉p9：注意を保持する・集中する

・書字の負担感を減らし意欲的に説明文を考えることができるように、けん玉作りの手順の書かれたカード（テンプレート）の活用や、キーボード入力等から、自分で作成方法を選べるようにします。（★）

👉p9：書き写す

<A児>が考えた「①まず」の段落の説明文

「① まず、けいとのはしを、まっぼっくりにまきます。そして、とれないように、むすびます。」



<A児>



私は、写真に合う手順の書かれたカード（テンプレート）を選んで貼り付けると、説明文が作りやすいな。

・自分が発表した内容を確認できるよう、音声入力機能を使い、文字情報として残しておきます。（☆）

👉p9：書き写す・自分の考えをまとめる

<B児>の発表

「まず」や「つぎに」と、順序が分かる言葉を使って、

松ぼっくりけん玉の作り方を

書くことができました。動画

や写真を見て、作る順番を考

えました。

<B児>



発表したことを後から確認できて、振り返りがしやすいな。これをワークシートに書こう。

授業を組み立てる際に、授業の目標やねらいに合わせて、1人1台端末の活用方法を考えたり、活用場面を設定したりします。ICT活用が効果的である場合は、児童生徒自身が自分の学びやすい方法であることを理解して他の教科等でも活用できるように、教職員間で共有して導くことが大切です。